川崎造船所の門扉が 二十一日目に開かれた

大半の職工は定員の一割五分

生る十三日以來十一日間閉鎖して居た神戸川崎造船所の門扉は廿五日午前五時頃から左右にサッと押開かれ警官隊兵水兵守衛消防隊が工場の内外を物々しく警戒して居る工場正門に通ずる海川筋の大通は十間隔位に正服私服の警官が一團となり見張って居る夫れに對し職工側も辻々に罷業斷行の檄文を掲示し道の兩側に堵列して入場者を睨み付けて居る、この勢ひに呑まれて折角辨當を提げて出て來た職工も思ひ直して踵を回らすものもあり三々伍々立止って行かうか戻らうかを相談するものもある、と警官隊は片つ端から是を入場させやうとする、午前六時から七時頃までは到る處で小ぜり合ひが續いて檢束者も五名許りあったが結局大した騒ぎもなく這入るものは這入り歸るものは歸った、職工は午前七時となるや數本の大煙突が濛々と黒煙を吐出す原動機は唸りガントリークレエンは活動し鋲を打つ音と鋼板を切斷する音が入亂れて大工場は十日に蘇生の叫びを揚げて居るが要するにそれは會社側の付焼氣で各工作部の出動人員は會社の發表では造船部千三百十一名（定員七千九百四十六名）造機三百四十二名（定員三千二十五名）製罐百七十七名（定員千五百三十三名）電氣五十名（定員五十名）兼合工場六百九十名（定員八百八十二名）兵庫工場百七十四名（定員三千三十九名）合計二千七百五十四名（定員一萬七千四百四十名）

で約一割五分の入場者で道にまた職工側の團結の固いことを示して居る、而も會社側では今日の出勤者は他の場動脅迫を恐れず各自の自由意思を以て誠意出業したものであるから奬勵の意味で日給の歩增しを與へることゝしたが明日から段々と就業者は增加するであらうと樂觀して居る

三菱の三工場では 雜役夫習業生が就業

當分事業開始の見込みがない

神戸三菱造船、內燃機、電機の各會社では二十五日朝個々に申出でた一部の職工と直傭罷業には關係のない雜役夫習業生のみを就業せしめることゝしたが罷業職工の結束は依然として固く殊に同日は六名の決死隊が組織され萬一出勤する樣なものがあれば容赦なくヤッ付ける等たなゝ物凄い流言が行れたので軍化職工は縮上り繁繁のない雜役夫習業生のみを就業せしめ一時は其噂に吃驚仰天して俄に私服隊を增す等物々しさを加へたがそんな樣子は更に見られなかった午前七時前雜役夫や習業生のみ入場し造船部で百三十名（定員八千名）電機四十名（定員八百四十名）內燃機二十五名（定員一千百名）が出動したのみで造船部では造船室が仕事を始めた外他の工場內では諸所の水さらへや機械室に人夫の影を見る許り機械は依然暑中休暇の體で一切の動力は動かず會社の附近には行商隊が各所に陣取り行商を軍化職工の看視を兼ねて居たので一職工は工伍長三十名の外一名も姿を現さなかった、一方會社では同日更に造船部百三名內燃機二十九名を解雇することゝし夫々解雇の書面を發したので一層職工側の激昂を煽り當分事業開始の見込みは付かない

川崎の就業者は 二百數十

罷業團の觀測

神戸勞働爭議團本部では前後來結束に結束を固めて戸別訪問をして軍化職工の切崩しを防禦し廿五日は早朝から各所に見張を置き入場者を調査したが川崎造船所の入場者は伍長三十名の外一時屋ひ六十名不具者四十三名老人三十名隠ひ職工五十名外六十名に過ぎず之等の大部分は勞働爭議に加盟しないもので結束の固いのは本部でも驚く程の好成績である、尤も工場に這入ったものはカナリ多數あったが之等は携ず工場又は鑄造職工等の臨時雇入れたもの及び多數の刑事が職工服に變裝したものであると又兵庫分工場は一技手及び工伍長等百七十四名入場したが其中加盟職工は十三名に過ぎず寄合工場も入場者四百五十名を出ないと觀測して居る

冷淡に構へては居ない

神戸市長は語る

勞働爭議に關する神戸市民有志大會の決議文を受取った櫻井神戸市長は二十五日朝市長室で語る「今回の勞働爭議に對しては最初から冷淡に構へて居たものゝ決して冷淡に構へて居たものではない何かしなければならないと過般の市會協議會に於て協議したのであったが不幸意見が纏らず時期尚早と云ふことになった勿論適當の時期に會すれば何等かの處置を執りたい考へである」云々

ブツシゴ

就業希望 二千と三千

川崎造船所が龍上全職工に對して「二十五日から就業する意志のある者は會社へ二十四日迄に通知せよ」と二十一日附で女書を發送した事は既報の通りだが、其後申込みが何名位あったか知らと會社へ聽き合はして見ると二十二日の夜業書がタッタ一枚着いた外に二十三日中約二百枚位と云ふ話は先づ本當と聞いて置いて廿二十四日の締切日の正午迄の模樣は云ふこと永望軍役日「約三千枚です」柳川秘書曰く「約一千枚位ですナア」……には問者の方が面食ひ「ナーニ大した違ひちや無い、約千枚だけの事サ、ダガ一體何方が本當だい」と變な顔

呼び込み職工

廿五日休業明けの川崎造船所で呼び込み職工と云ふのを案出した夫は出勤職工數が餘りに少數なる爲め工伍長及び記錄係等を本職工に變裝させて表門から入れ裏門から出し再び表門から入れて居たに所遊船の姿の上から眞物の職工が見て居たので今度は表門から出して海岸からランチに乘せ米利堅波止場から上陸せしめて再び表門から入れ堂々廻りをさせて出勤者の多いやうに見せ附近を辻廻りして居る職工を呼込むなぞ願る大に考へてゐたこと

波紋が寄って來た 吳の海軍工廠

三菱造船職工窃かに來往し

「川崎爭議團行商隊」の五名も

夕刊 葉服で行商

吳海軍工廠では神戸三菱川崎造船所の勞働爭議が直接工廠に影響するのと三万六千餘の職工に多少でも動搖を起す樣な事があってはならぬと爭議の推移につき非常に注意を拂ひつゝあるが數日前から三菱造船所職工數名

窃かに

吳市に入込み工廠職工數名と盛んに往來した形跡があるので俄に警戒を嚴重にした傳同職工等は遂に廿五日八幡に向つたが更に廿六日川崎造船所職工和田義作外五名の行商隊は行李につめた商品雜貨類を携へて乘り込み眞先に吳警察署に出頭して諒解を求めた、行商隊は何れも染ッパ服の左の腕に白地に墨で川崎爭議行商隊と記した腕章を附け吳を市に亘って數日間行商を試むる外場合によっては實傳說話を開始する見込みである

行商隊員の和田義作氏は語る

吾々は最後の日まで戦ふ決心で二万の同志が東京から九州の果てまで行商隊を出し同情資金を集めて居ります吾々の戦は何處までも正正堂々として同志の同情を集めたいと思ひます中國方面では眞先に最も吾々の干係深き工場勞働者諸君の同情に訴へ多少でも運動資金を集めたいと思って出掛けたのです云々（廿六日、吳發）

神戸に於ける 勞働問題研究

國黨緊急幹部會

[illegible]にては二十六日午前十一時[illegible]幹部會を開き大[illegible]總理古島一雄[illegible]田茂氏出席し[illegible]爭議に關し報告、勞黨の態度決定を要求せんが爲め上京したる砂田代議士より神戸に於ける勞働爭議の經過に對し詳細なる報告ありて神戸の勞働爭議は既に今日は單なる賃上げ問題たるに止まらず社會上一個の問題たるに至まれり爭議勃發以來一箇月に亙るも何等解決の曙光現はれず勞働者三萬人此等の家族を合すれば約十五萬人は生活の危機に瀕せり此等の內二三千人の勞働者は自掘上自殺の爲め行商人を爲れり之が爲め全市の小賣商人に迄影響を及せり政府は軍隊を十數日間神戸市に駐屯せしめ[illegible]れるが當局にありては公安を害するの危險ありと認め居れる爲めなるべきも其の安の根本を除去する方針に出でず徒に消極的態度を執れり依って我黨は政府當局の眞意を質し答る後我黨の態度を決定したし曰は政府にして何等解決の方法を講ぜざるに於ては我黨は一歩進んで眞正なる立場にて勞働爭議調停委員會を開したしと述べ之に對して服部國務大臣より賛成の意を述べ最後に

犬養總理

神戸に於ける勞働爭議は一日も速に解決せざる可らず黨としては樞密院砂田顧問者が床次內務大臣と會見し連絡をなすと共に古島首並に自分も床次內相に私的會見の上解決方法の腹說を試むべし曾神戸に於る河崎會を開くに至る場合は古島、樞密、砂田、服部の諸君臨席しては如何

一同之に賛成し右の如く決定し二時散會せり因に砂田顧問者氏は二十七日午前中床次內相と會見するに決せり